

巻頭言

メディアセンター長

立教大学理学部 教授 平山孝人

2012年度に開始したV-Campus 5thが運用2年目となりました。2011年3月の震災を受け、V-Campus 5thでは「災害に強いシステム」を一つの柱として、ネットワーク回線の二重化を始めとした災害に強い基盤を構築しました。幸い、大震災以降大きな災害は起こっていませんが、これらの対策により通常運用中に機器の故障などがあってもユーザーには影響が起きにくくなりました。また、5thではウィルスメールや外部からの攻撃に対応するシステムを新たに導入し運用しています。これにより立教大学のシステムの安全性は劇的に向上しましたが、このような外部からの悪意を持った攻撃とそれを防ぐシステムの攻防はたちごっこであり、いまのシステムでも決して万全とは言えません。フィッシングメールなどによるアカウント情報の外部への流出など、システム的に防ぎきれない事例も起きているのが現実です。今後は攻撃に対してより強いシステムの構築をする必要があることに加え、ユーザー一人一人がこのような脅威を身近のものと考え、自分で自分の身を守るという意識向上が必要であり、メディアセンターとしては学生・教職員のICTに関するリテラシー向上の努力を続けたいと考えています。

ここ数年に大きく進んだこととして、Open Course Ware (OCW), MOOC (Massive Open Online Courses) を始めとした、インターネットを用いた講義の公開の動きがあります。立教大学でも2012年9月よりApple社のiTunesUに講義の公開を開始し、2014年度にJMOOCへの科目提供を開始する予定です。このような動きは今後も一層盛んになることが予想され、立教大学としても積極的に参加をする方向です。このような授業を収録して公開することは社会貢献および立教大学の一般の方への認知度の向上という意味・意義もありますが、私自身の経験から言うと自分の講義を見返すことによる授業改善 (FD) に対しても非常に大きな効果があると考えています。メディアセンターとしても講義収録をする教員へのサポートを始めとした全面的なバックアップをしていますので、興味をお持ちの教員は是非ご協力をお願いいたします。

まだ先の話ではありますが、2016年度から運用を始める予定のV-Campus 6thについて、メディアセンターとして検討を開始しています。6thでは現状の情報基盤の機能と利便性を更に向上させ、かつ、より安全なシステムを目指すことはもちろんですが、ユーザーが

必要とする機能に柔軟に対応できるようなシステムを目指したいと考えています。例えば V-Campus 5th において新たに開発・公開したスマートフォンアプリの休講・教室変更情報のプッシュ通知機能は、現在ではかなりの学生に使われています。この機能は、ユーザーの大部分を占める学生からの強い要望によって実装された機能であり、メディアセンターとしては今後ともユーザーの要望をどんどん吸い上げて、新たなサービスが提供できるよう努力をしていくつもりです。ユーザーの皆様も是非要望・ご意見をメディアセンターまでお寄せいただき、今後、より使いやすい・便利なシステムになるようご協力をお願いいたします。